

までっこチキン生産者連絡協議会(岩手県)



東日本大震災の影響

畜産飼料の復旧に 全力を挙げています！

東日本大震災で、東北から関東にかけての飼料工場が被災したことにより、畜産業界では飼料の調達が困難な状況が長く続きました。パルシステムの産直商品の特徴である飼料へのこだわりも、基準を緩和して対応せざるを得ませんでした。その後、少しずつ飼料工場が復旧し、従来通りの基準に戻す目処も、徐々につき始めています。

産直商品(供給中)の飼料復旧状況について(6月末現在)

『日本のこめ豚』 ※現在は一部の冷凍商品のみ供給しています。	冷蔵商品は10月1回(予定)のお届け再開に向けて準備中 東北沿岸部に集中する飼料工場が被災したため、震災直後より飼料が不足。産地のポークランドグループ(秋田県)では、今年1年で使用する予定だった飼料米を震災直後から使用し、使い切ってしまった。現在、全国から飼料米を集荷し、『日本のこめ豚』の生産に向けた準備を進めています。7月以降、給餌の体制が整い、9月頃から出荷が始まる見通しです。
『までっこ鶏』	5月初旬より、抗生物質不使用の飼料での飼育に切り替え 東北沿岸部に集中する飼料工場が被災したため、震災直後より飼料が不足。『までっこ鶏』の基準である、抗生物質不使用の飼料の製造もストップしましたが、4月末より製造・供給を再開しました。10月頃(予定)の商品供給に向けて、5月初旬より抗生物質不使用飼料での給餌を再開し、6月から製造を開始しています。ただし、部位や製品によっては今年度内は両方の商品が混在する可能性もあるため、商品ラベルで表示します。『までっこのこめ鶏』も、9月頃より製造を開始する予定です。
『米沢郷鶏』	6月初旬より、非遺伝子組換え飼料での飼育に切り替え 東北沿岸部に集中する飼料工場が被災したため、震災直後より飼料が不足。『米沢郷鶏』の基準である、非遺伝子組換え(Non-GMO)飼料の供給もストップしましたが、5月末より製造・供給を再開しました。10月頃(予定)の商品供給に向けて、6月より非遺伝子組換え飼料での給餌を再開し、7月頃から製造を開始する予定です。ただし、部位や製品によっては今年度内は両方の商品が混在する可能性もあるため、商品ラベルで表示します。
『産直たまご(白玉)』	6月中に全産地で、非遺伝子組換え飼料への切り替え完了 飼料工場被災の影響で、『産直たまご(白玉)』の基準である、非遺伝子組換え(Non-GMO)のとうもろこしが調達困難に。一時的に各産地で遺伝子組換え飼料を使用しましたが、6月中に全産地で非遺伝子組換えとうもろこしへの切り替えが完了しました。また被災した花見園(宮城県・岩手県)からはプラスチックバックでお届けしていましたが、6月2回からモールドバック(通常の紙製バック)に変わりました。
『産直たまご(赤玉またはピンク玉)』	7月中に全産地で、非遺伝子組換え飼料へ切り替え予定 飼料工場被災の影響で、『産直たまご(赤玉)』の基準である、非遺伝子組換え(Non-GMO)のとうもろこしと大豆が調達が困難に。一時的に各産地で遺伝子組換え飼料を使用しました。7月中に全産地で、非遺伝子組換え飼料へ切り替えが可能となる見通しです。
『産直こめたまご(赤玉またはピンク玉)』	7月中に全産地で、非遺伝子組換え飼料へ切り替え予定 飼料工場被災の影響で、神奈川中央養鶏農業協同組合(神奈川県)の大豆が非遺伝子組換え(Non-GMO)を指定できませんでしたが、7月中には全産地で、非遺伝子組換え飼料へ切り替えが可能となる見通しです。なお、『産直こめたまご』の基準である、全飼料中10%以上の飼料米の調達は問題ありません。
『コア・フード 平飼いたまご』	従来通り、全飼料を非遺伝子組換え飼料で飼育 震災後も、飼料のすべてを非遺伝子組換え(Non-GMO)飼料で飼育する従来通りの基準でお届けしています。
『トキワの玄米玉子』	7月1回に供給再開 震災以降、セットセンターのセット枠の都合上、企画を中止しておりましたが、7月1回に企画を再開しました。※インターネット限定商品です。

産直青果の「産直いきいき品質」は10月1日より再開し、レタス、サニーレタス、キャベツなどから徐々に品目を拡大していきます。

ポークランドグループ(秋田県)



家畜のいのちを優先するため、やむを得ず飼料の基準を緩和
パルシステムでは、豚肉、鶏肉、鶏卵などに多くの東北産地を抱えています。震災後の影響として共通していたのが「エサが足りない……」という問題。産地同士での助け合いも行いましたが、東北地方の飼料工場の復旧見通しが立たないなか、飼料不足は予想以上に深刻でした。
これまでパルシステムでは、商品ごとに「非遺伝子組換え」や「抗生物質不使用」などの飼料にこだわってきましたが、こうした指定は困難に。家畜のいのちに関わるため、やむを得ず基準を一定期間緩和し、飼育を優先させています。
飼料工場が当てにならないなか、ポークランドグループ(秋田県)のように、『日本のこめ豚』用に仕入れた飼料米で、豚のいのちをつないだ産地もありました。

その後、飼料工場は徐々に復旧し、5月末頃からパルシステム指定の飼料も供給を再開し始めました。『までっこ鶏』『米沢郷鶏』は、一部の商品については10月頃(予定)より、従来通りの飼料基準でのお届け再開に向けて準備を進めています。また『日本のこめ豚』も、産地の近隣の農協から飼料米の提供をお願いできる目処がついたことから、10月1回(予定)に再開する見込みです。『産直たまご』は商品によって基準が異なるものの、6~7月にかけて、全産地でとうもろこしを「非遺伝子組換え」に切り替えを完了できる見込みです。
飼料の価格高騰も厳しいなか、これまで買ってきた飼料へのこだわりを取り戻そうと、どの産地も懸命の努力を続けています。どうかご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

牛乳が再開しました！

震災以降、工場の停止や紙パックの不足などで、パルシステムの独自商品である「産直牛乳」をお届けできない状況が続きましたが、紙パックの調達目処がついたことから、6月4回から『いわて奥中山低温殺菌牛乳』が、7月1回から『こんせん72牛乳』が再開しました。

pal my kitchen 105 Kinari 106 yumyum 106冷
こんせん72牛乳
1000ml 220円(本体 210円)

pal my kitchen 106 Kinari 107 yumyum 107冷
酪農家の牛乳
1000ml 220円(本体 210円)

pal my kitchen 108 Kinari 109 yumyum 109冷
いわて奥中山低温殺菌牛乳
1000ml 248円(本体 237円)